

日本航空電子工業 (6807)

参考銘柄

【ホームページアドレス】 <http://www.jae.co.jp/>

薄型テレビ、携帯電話で急成長したコネクタ大手

1953年、日本電気の子会社、日本航空エレクトロニクスとして創業。航空機のメンテナンス事業などを行う。1955年、今日の主力製品コネクタの製造を開始した。07.3期の売上高構成比率はコネクタが76%、液晶基板などのシステム機器が11%、ジャイロセンサ、油田掘削用センサなどの航機事業が11%、光デバイスその他が2%。コネクタは海外の携帯電話、エアバッグ・カーナビゲーションなど自動車関連、薄型TV用、新幹線用先頭電気連結器など幅広い分野に提供している。

通期予想は円高、薄型テレビ向けの価格低下を吸収できず下方修正

3月21日に08.3期通期業績修正を発表した。売上高が1,560億円、前期比13%増、営業利益が138億円、同18%増。当期利益は計画が延期となっている官民共同開発ロケット打ち上げ事業化会社への保証債務を全額(21億円)引き当てるため58億円、同21%減。従来ของบริษัท予想から売上高を17億円上方修正したが、営業利益を22億円下方修正した。これは、第4四半期に入り対ドル為替が100円割れまで急騰した状況に収益確保の体制作りが間に合わなかったこと、薄型テレビ向けの価格引き下げ要求をある程度受けざるを得なかったこと、金属素材価格の高騰にコストダウン活動が現段階で追いついていないことによる。

内製化比率の更なる上昇、海外生産体制強化を推進

09.3期も円高進行や薄型テレビ向けの価格低下圧力が続くことは、リスク要因である。一方、想定通り進んでいなかったハイビジョン化や大型化の進展が予想され、追い風になる。新製品投入による販売価格の回復も期待される。また当社は、海外携帯電話向けやカーエレクトロニクス向けなど成長ドライバーを数多く持っており、価格低下への抵抗力があり、安定した収益確保が可能である。コネクタ以外では規模は小さいが原油高を背景に、油田切削用センサも成長が期待できる。08.3期はフィリピンの工場を1.8倍に増床し海外生産体制を強化、10月には昭島工場内で金型供給体制を強化し内製化比率を引き上げた。09.3期は増産体制確保のための設備投資もピークアウトしよう。特損部分もなくなり、当期利益は大幅増益となる。 (兵藤)

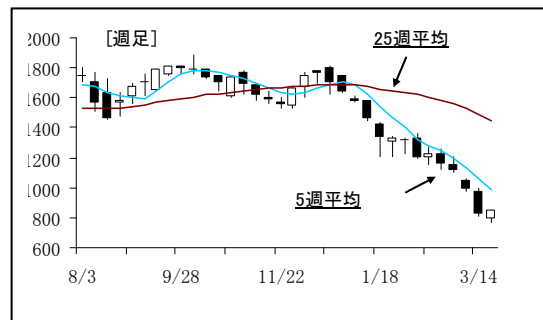
◇09.3期の最終利益は大幅増を予想

[業績推移] (連結)

単位：億円、円、()は伸び率%

決算期	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
07.3	1,376(9)	117(7)	108(11)	73(17)	80.0	11.00
08.3予	1,560(13)	138(18)	120(11)	58(▲21)	63.3	12.00
09.3予	1,600(3)	140(2)	123(2)	80(37)	87.2	12.00

◇株価は底値模索中、反発に期待



[主要株価指標] (売買単位：1000株)

株価 (2008/3/25)	717 円
昨年来高値 (高値日)	1,900 円(07/7/26)
同安値 (安値日)	695 円(08/3/25)
予想PER	11.3 倍
1株株主資本	642.6 円
PBR	1.12 倍
予想配当利回り (年12円で)	1.67 %
ROE	13.2 %
発行済み株式数	923 万株